

学校評価

I V Y大分高度コンピュータ専門学校

開催年月日： 令和6年6月3日

委員：

| 所属            | 種別        |
|---------------|-----------|
| 公益財団法人 研究所 理事 | 有識者（業界団体） |
| 国立大学 助教       | 有識者（学術関係） |
| 企業 代表取締役      | 企業委員      |
| 企業 代表取締役      | 企業委員・卒業生  |
| 企業 代表         | 企業委員・卒業生  |

【令和5年度 学校関係者評価】

まとめ

| 項目          | 自己評価 | 適/不適 | 評価  | 評価に係る提言・今後の改善等   |
|-------------|------|------|---|--|
| (1) 教育理念・目標 | 3.8  | 適切   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・アットホームな校風は学校の理念に基づいているものと考えており、適切な運用の成果だと考えている</li> <li>・最新のIT開発事情をよく調査して、それを教育カリキュラムに反映させている</li> <li>・社会・業界のニーズに合ったものとなっている</li> <li>・生徒の意欲を引き出すための、度量の広い校風は、理念と合致していると感じる</li> </ul>                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・編成時に提言をよく聞いてくださっており、改善の工夫は不要と思う、このまま進めて欲しい</li> <li>・社会の浸透するAIなどの新しい技術に対応し、安心・安全な社会構造を構築するための教育（技術者モラル・著作権・セキュリティなど）にも力を入れたものも目指して欲しい</li> <li>・多様な価値観を許容する現在において、「人間力の育成」に対して、一歩踏み込んだ具体的な目標が必要だと思う</li> </ul> |
| (2) 学校運営    | 3.5  | 適切   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・時代の変化に対して、外部との連携も柔軟に行なうことで常にアンテナを張り、高いレベルで学校運営が適切であると思う</li> <li>・広育編成の在り方や先生方の雇用などよく進められており、問題ないと判断する</li> <li>・教員の入れ替わりに伴う新たな組織づくりが着実に進んでいるように感じられる</li> <li>・適切な運用だと思う</li> </ul>                          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・例年通りということに捉われずに新たな講演会などの実施もしてはいかかが</li> </ul>  |
| (3) 教育活動    | 3.7  | 適切   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・適宜カリキュラムの見直しを行ないながら、毎年の卒業研究のレベルも、一定のレベルをキープできていると判断している</li> <li>・カリキュラムの変更、企業連携での教育の品質の向上に努めている</li> <li>・毎年、社会的に利用されているIT技術についてカリキュラムを見直し、適切な教育活動ができている</li> <li>・安定した就職率の維持、高い資格取得率は、誇らしい伝統だと思う</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・AI活用力カリキュラムをそろそろ考えていく必要があるように思える</li> <li>・更に活性化した教育活動を行なう努力をしてほしい</li> <li>・コミュニケーション能力や課題解決能力の育成に加えて、生徒の意欲を引き出す工夫も必要になると感じる</li> </ul>   |

|                |     |    |  |  |
|----------------|-----|----|--|--|
| (4) 学修成果       | 3.2 | 適切 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・貴校の生徒は非常に優秀な生徒が多くおり、早い段階での高い内定率も納得している</li> <li>・高い内定率、就職率だけではなく、ITエンジニアとしての能力もしっかりついていると思う</li> <li>・生徒それぞれの特性が生かされた就職を熱心に取組んでいる</li> <li>・生徒の特性が生きる就職を、教員全員で熱心に取組んでいるように感じる</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業生同士での交流会やコミュニティを開催し、その情報を公開してはどうか</li> <li>・就職後の定着率の低下は、社会的な大きな問題となっている。生徒自身が自分のキャリア形成を深く考える機会を更に増やす必要生を感じる</li> </ul> |
| (5) 学生支援       | 3.6 | 適切 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・就職に関して、売り手市場の世相に対して柔軟に対応できていると判断する</li> <li>・就学中より、卒業に対するケアがあっても良いと思う。母校愛を育み、同窓会が活性化するようにするとよい</li> <li>・個別に適正に支援できていると思う</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・就学意欲の低い学生への指導は大変だが、これこそ教育の重要性であるのでお願いしたい</li> </ul>  |
| (6) 教育環境       | 3.0 | 適切 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・パソコン、マックの導入について、学年のより差が出た。カリキュラムに沿うためのものかもしれないが、安定した授業環境を用意すべきと思う</li> <li>・地元のIT企業より講師を招き、現場に使い立場の人間が教育を行なう科目も用意し、実学の機会が大いに提供されている</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・インターンシップ実施の更なる体制強化は必要だと思う</li> </ul>   |
| (7) 学生の受入れ募集   | 3.6 | 適切 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的に早い時期からの定期的体験入学やオープンキャンパスは、入学希望者とのミスマッチを減らしている</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・更に少子化は進むので魅力ある学校づくりが必要</li> <li>・18歳人口の更なる減少に対し、更にアピール対応が必要になると考える</li> </ul>  |
| (8) 財務         | 4.0 | 適切 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・適切な運用だと思う</li> <li>・特になし</li> </ul>  |  |
| (9) 法令等の遵守     | 4.0 | 適切 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・適切な運用だと思う</li> <li>・特になし</li> </ul>  |  |
| (10) 社会貢献・地域貢献 | 4.0 | 適切 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業研究でベリーツの判別を行なうシステム導入を提案したり、地域交流に関して適切な運用だと思う</li> <li>・生徒全員に社会・地域貢献の理解を進める必要があるが、よくなっていると思う</li> <li>・学生が市民向けの講座の補助を積極的に行なっており適切だと考える</li> </ul>                                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・いきなり作業を押し付けるのではなく、社会人としての役割や道徳性を身に着けるための教育など優先的にしてはどうか</li> <li>・学校が持つ教育的資源を地域にフィードバックする努力を検討して欲しい（市民講座の開催など）</li> </ul> |
| (11) 国際交流      | —   | —  | —  |  |

<平均> 3.6